

令和6年度病虫害発生予察予報第5号(令和6年8月)

令和6年8月2日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲 (普通期稲)	いもち病(穂いもち) 紋枯病 ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ 斑点米カメムシ類 コブノメイガ	<u>多(県下全域)</u> <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央、中西) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央、中西) <u>多(東部、中央部、西部)</u> 、やや少(中西部) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u>
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> 少(中央) <u>やや多(中央)</u>
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ	少(県下全域) <u>多(東)</u> 、平年並(中央)、やや少(中西)、少(西) <u>やや多(東、中西)</u> 、少(中央、西) <u>やや多(東)</u> 、平年並(中西)、少(中央、西)
果樹類	カメムシ類	<u>多(県下全域)</u>
青ネギ	ネギアザミウマ シロイチモジヨトウ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報(高松地方気象台8月1日発表)

8月3日から9月2日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

週別の気温は、1週目は高い確率が80%、2週目は高い確率が80%、3～4週目は高い確率が70%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	10	80	
		降水量	30		30	40
		日照時間	30		30	40

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		10	10	80	
3～4週目		10	20	70	

<予報の対象期間>

1か月:8月3日(土)～9月2日(月)

1週目:8月3日(土)～8月9日(金)

2週目:8月10日(土)～8月16日(金)

3～4週目:8月17日(土)～8月30日(金)

II 病虫害発生予想

1 普通期稲の病虫害

1)いもち病(穂いもち)

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で葉いもちの発生が確認されており、発生面積は県下全域で平年より多かった。発病程度はいずれの地域とも平年以下であったが、県中央部、中西部、西部ではずり込み症状を呈するほ場も確認されている。

(2) 8月の降水量はほぼ平年並となる見込みで、多発ほ場を中心に穂いもちに移行することが予想される。

対 策

(1) 出穂前に進行型病斑を認めたら、速やかに薬剤防除を行う。

(2) QoI剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて1回とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) 紋枯病

予 想 発生量:多(西部)、やや少(東部、中央部、中西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中央部、西部で発生が見られた。発生面積は、県西部で平年より多く、中央部で少なかった。発病程度は、西部で平年並、中央部ではやや低かった。
- (2) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並と予想されていることから、既発ほ場では病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 止葉まで発病すると稔実が悪くなり、減収するので、発生の多いほ場では穂孕期および穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量:多(西部)、やや少(東部、中央部、中西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県西部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発病程度は平年よりやや高かった。
- (2) 本病の発生は、肥切れによって助長される。8月の気温は平年より高いと予想されているため、イネの黄化が進みやすく、常発地域を中心に発生は増加するものと考えられる。

対 策

- (1) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

4) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量:多(東部、中央部、西部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、東部でやや多く、中西部で少なかった。発生程度は西部で平年よりもやや高く、中央部、中西部で平年並、東部では低かった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、稔実が悪化することがあるので、その場合には他の病害虫とあわせて防除を行う。

5) ヒメトビウンカ

予 想 発生量:多(東部)、やや多(中央部)、やや少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部、中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は、東部で平年よりも多く、中央部で平年並、中西部で少なかった。発生程度は各地域とも平年以下であった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病の発生はほとんど見られず、また本虫が高密度になることもほとんど無いため、本虫のみを対象とした薬剤防除の必要性は低いと考えられる。

6)セジロウンカ

予 想 発生量:多(中西部、西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも多く、西部でやや多く、中央部で平年並、東部では少なかった。発生程度は、いずれの地域とも平年以下であった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) トビイロウンカと同時防除を実施する。

7)トビイロウンカ

予 想 発生量:多(西部)、やや多(中西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県中西部、西部で発生が見られた。発生面積は西部で平年よりも多く、中西部で平年並であった。発生程度は、県西部で平年より高く、中西部で平年並であった。
- (2) 海外飛来性害虫飛来予測システムによると、6月15日～7月15日の間に、飛来に適した気象条件が12回出現したと予測されている。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は局所的に発生するので、ほ場全体の見回りを徹底する。
- (2) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

8)斑点米カメムシ類

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 6月中旬～7月上旬に実施した早期稲の調査では県下全域で発生が見られ、1ほ場あたりの捕獲頭数は県内全域で平年を大きく上回った。
- (2) 普通期稲でも出穂前にも関わらず斑点米カメムシ類の発生が確認されている。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が予想されるので、穂揃期及びその7～10日後に防除する。ただし、イネカメムシの発生が多い場合には、出穂期の加害により不稔となる恐れがあるので、出穂期に防除を実施する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣る

ので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

9) コブノメイガ

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中西部、西部で平年より多く、中央部でやや多かった。発生程度は県下全域で平年以下であった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖に好適となるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

2 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年よりもやや低かった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少ないものの、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:少(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発病程度は低かった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1~2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量:やや多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発生程度は平年よりもやや高かった。
- (2) 8月の気温は、平年より高いと予想されている。高温期には本虫の増殖が緩慢となることから発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

3 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量:少(県下全域)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は東部、中央部ともに平年より少なかった。発病程度は両地域ともに平年並であった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 窒素過多が発病を助長するので注意するとともに、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:多(東部)、平年並(中央部)、やや少(中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部、中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は東部で平年よりも多く、中央部で平年並、中西部でやや少なかった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1~2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) かいよう病

予 想 発生量:やや多(東部、中西部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県東部、中西部、西部で発生が見られた。発生面積は、東部、中西部で平年よりもやや多く、西部で少なかった。発病程度は東部、中西部、西部とも平年以下であった。
- (2) 8月の降水量は、ほぼ平年並と予想されており、本病の発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量:やや多(東部)、平年並(中西部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は、県東部で平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部、西部で少なかった。発生程度は東部で平年よりもやや高く、中央部、中西部でやや低く、西部で低かった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されている。高温期には本虫の増殖が緩慢となることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4 果樹類の病害虫

1)果樹カメムシ類

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる7月の誘殺数は、県下全域で平年を大きく上回った。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

5 青ネギの病害虫

1)ネギアザミウマ

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、全調査ほ場で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

2)シロイチモジヨトウ

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりもやや低かった。
- (2) 8月の気温は平年より高いと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 卵塊や幼虫は見つけ次第除去する。
- (2) 幼虫が葉内に食入すると効果が落ちるので葉内食入前の若齢期に薬剤防除を行う。

- (3) 同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧 (農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)